

## 合志市歴史資料館について

- 沿革
- 平成7年 ヴィープル内に「合志町歴史資料館」として開館
  - 平成18年 合志町・西合志町の合併により「合志市」となる合併に際し、西合志町の「郷土資料館」と併合し「合志市歴史資料館」として新しく開館する。
  - 平成30年 熊本地震の被害を修復し、リニューアルオープン

総面積

932m<sup>2</sup>

施設概要

### 原始・古代

国指定史跡である「二子山石器製作遺跡」(想像模型も展示)、縄文時代から奈良・平安時代までの遺跡が発見された「八反原遺跡」、「豊岡宮本横穴群」「荻迫横穴群」などからの貴重な出土品を数多く展示しています

### 中世

合志郡地域の統治の拠点であった「竹迫城想像模型」や「竹迫城絵図」、地域で大切に保存されている「今町座組阿弥陀如来像」の複製、その他竹迫氏・合志氏約400年にわたる関連資料などを紹介しています。

### 近世

細川藩時代の郡内の地理を示した「合志郡絵図」、寛政年間に須屋神社に奉納された「三十六歌仙絵馬」、江戸の終わりから明治期にかけ金澤流淨瑠璃を起こし活躍した「金澤巣鶴」の遺品なども紹介しています。また、地域の豪農家屋から発見された「三万枚の備蓄錢」も展示しています。

### 近代

昭和30~40年代に大活躍した大相撲の郷土力士「関脇・福の花」、明治~昭和にかけ、『農と人づくり』の教育を柱とし、約6600人の同窓生を輩出した私塾「合志義塾」のパネル展示などや、「西南戦争」関係資料などを展示しています。また、火山灰表土を豊かな農地に変貌させてきた様々な「農具」、往時の懐かしい生活用品を集めた「昭和の部屋」もあります。

## 「合志」の由来

合志郡は、古くは「火の道の尻の国」に属し、「火の尻邦小石川郡」と称しましたが、後には「加波志」に改め、成務天皇の御代(135年)に「皮石」と改められた。

『日本書紀』によると、持統天皇10(696)年に白村江の戦いで唐軍の捕虜となっていた皮石郡の壬生諸石が百濟より帰国し追大式という冠位を授かり、諸々の恩典を受けている。

和銅6(713)年、元明天皇の国郡郷邑の名称「好字好音の詔」で「皮石」を現在の「合志」と改称され、それより明治29(1896)年菊池郡と合併するまで1183年間の永きにわたり合志郡と称した。「合志」は、その合志郡の中心地として大きな役割を果たし、現在に至っている。

### ●開館時間●

午前9時~午後4時30分

### ●休館日●

月曜日(月曜が祝祭日の場合は、翌平日)  
毎月の月末日・年末年始

### ●入場(観覧)料●

無料

### ●アクセス●



〒861-1116  
熊本県合志市福原2922  
(合志市総合センター“Viープル”3階)  
TEL 096-248-5555  
FAX 096-248-5450

合志市生涯学習課



～紡いできた歴史への『道しるべ』～

# 合志歴史資料館



熊本県合志市

## 1 二子山石器製作遺跡

縄文時代後期～晩期にかけての打製石斧(おの)の製作跡です。石器は近くの遺跡からも出土しており、当時の交易範囲や製作過程を知る上で重要であることから、昭和47年、国指定史跡に指定されました。他に円墳2基や西南戦争の際の砲台跡があります。資料館では、出土した石器や地形の模型を展示しています。



## 2 豊岡宮本横穴群

古墳時代後期(約1500年前)の横穴の墓です。31体分の人骨のほか、イモガイ製の貝輪や金環、ガラス玉・勾玉・武具や馬具などが出土しました。現地は、見学路や説明看板が整備されており、また装身具や武具等を、資料館で展示しています。



## 3 八反原遺跡

縄文時代から平安時代の複合遺跡です。各時代の土器のほか、縄文時代の石器、弥生時代の鉄器・青銅器・ガラス玉、竪穴式住居、古墳時代の円墳や箱式石棺、奈良平安時代の住居跡などが見つかっています。現在は畠地ですが、資料館では出土物を展示しています。



## 4 須屋城跡

南北朝時代に一帯を治めた須屋市藏隆正の居城と伝わります。東西に220m、南北に320mの平城で、空堀跡や土塁が残り、中世の平城跡として県内でも数少ない貴重な遺跡です。資料館では、出土品を展示しています。



## 5 竹迫城模型

鎌倉時代初頭、地頭職として赴任した竹迫氏の祖、中原師員が築いたと伝わります。竹迫氏約320年、合志氏約80年の居城として、合志郡一帯の統治の拠点として栄えましたが、天正13(1585)年、島津氏との戦いで落城しました。周囲約5.9kmの惣構え(外堀)が注目されています。資料館では、城周辺の想像模型を展示しています。



## 6 今町座組阿弥陀如来像

ふたご二子区今町に伝わる朝鮮半島からの渡来仏です。高麗時代(915～1392年)後期に造られたとみられ、銅製で中は空洞になっており、肥満気味の作の多いこの時代としては珍しく細身で背筋が伸びています。資料館では、その複製を展示しています。



## 18 市内パノラマ

半円形を中心とした航空写真を背景に、前面に市の施設や文化財の場所を示した立体模型を配し、空から市内を見渡したような眺望を味わうことのできるパノラマが広がります。

## 17 昭和の部屋

昭和の部屋には、市民の方々が寄贈してくださった昭和時代以前の生活用品が数多く展示されています。特に、毎年市内外の小学生が「古い道具と昔の暮らし」などの授業で訪れる貴重な学習の場となっています。

